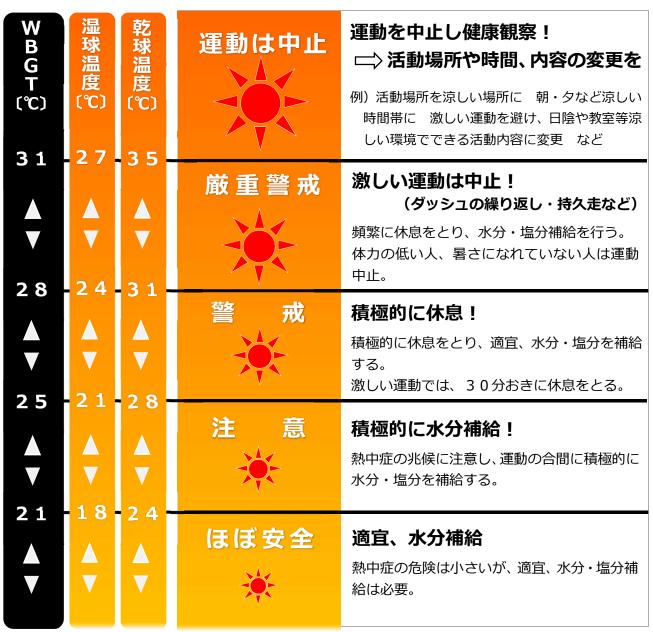
熱中症予防のための運動指針



※日本スポーツ協会「熱中症予防のための運動指針」をもとに作成

熱中症は、気温・湿度などの環境条件に配慮した運動の実践や、こまめに水分や塩分を補給し休憩を取ること、児童生徒への健康観察など健康管理を徹底することによって防止できます。

WBGT 等により環境温度の測定を行い、「熱中症予防のための運動指針」に沿って、 運動を行いましょう。

> WBGT31℃未満であっても、 水温が 33℃以上の場合は、水泳の授業は中止

令 和 7 年 3 月 高槻市教育委員会